優秀賞(京都府教育委員会教育長賞)

武力を持たない国として

京都府立洛北高等学校附属中学校
二年 塚田 真菜望

「北方領土」、ニュースや学校の授業ではよく耳にするけれど、京都に住んでいる私たちからはとても遠く、あまりなじみのない言葉だ。しかし今回北方領土について調べていくうちに少しずつ北方領土の本当の姿が見えてきた。

私たちは、北方領土問題を解決するためには、日本とロシア、双方の意見や立場を理解し尊重することが必要不可欠だと思う。そのために私たちができる事は、国民一人一人が北方領土について正しく「知り」、国に向けて発信していくことだと思う。私ははじめ北方領土はロシア兵が来て、島を占領しただけだと思っていたが、以前からロシアと島の人々との交流はあり、日本とロシアの子どもたちの仲がよかったことや日本人を追い出す際にも、島の農業や漁業、教育の発展の面から、ロシア側に引き留められた日本人もいたことを知った。「北方領土」という言葉は、日本のだれもが習う言葉だが、その言葉と今の問題を結びつけて本当の姿を見つめるということはとても難しいことだと思う。北方領土問題は日本の領土問題の中で歴史が長く、深い問題だ。だからこそ、学校の授業等で調べ学習をするなどして理解を深めるべきだと思う。

戦後約七〇年、日本はたぐさんの問題を「協力」や「話し合い」で解決してきた。唯一の被爆国であり、平和を重視する日本だからこそ、ロシア側の意見も考え、「協

力」という方法を提案すべきではないだろうか。実は今、平和条約締結という条件付きではあるが、ロシア側も歯舞群島と色丹島の返還に同意している。このことは、全島返還までの道のりは遠いけれど、私は大きな一歩になると感じた。

しかし、何故二島なのか。私が考えたことは、①ロシアは冬になると海が凍り、漁業ができなくなるため冬でも凍らない漁場が必要だということ、②今でもたぐさんのロシア人が島で生活しているため、返還によって島を追い出されないようにするため。他にも理由はあると思うが、これらは日本との協力によって解決できると思う。日本でも元島民の方々も島を訪れ墓参をしたいと希望している。北方領土はもはや日本とロシアの両方にとってなくてはならないものとなっている。

そこで私は日本とロシアが協力して行う共同経済活動に期待している。この方法はすでに日本政府も同意している、私はこれを見た時、とても日本らしくよい方法だと感じた。そして今後、経済だけでなく政治の面など多方面で両国の長所を生かすことができたら、島はとても豊かになると思う。昔はロシアと島の交流もあつたのだから、今でもできるのではないか。協力し合い、発展しあうという考えは、武力を持たない平和な日本だからこそできる日本らしい考え方になるはずだ。

今回北方領土を調べ考えたことで、私は日本の領土問題について知り、大きな関心を持った。だから、これからも日本の抱える国際問題についてしっかり考えていきたいと思う。

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

国際理解によるソリューション

京都府立園部高等学校
一年 高橋 怜奈

北方領土問題は、教科書の中だけの出来事ではなく、日本における外交問題の在り方の是非を問う事柄である。

約一年前に行われた日ロ首脳会談では、安倍首相のふるさとである山口県にプーチン大統領を招き入れ、ふるさとを大切に思う気持ちを交えながら、慎重に交渉を重ねていたのが記憶に新しいだろう。日本がここまでロシア側と問題解決のための親交を深めているのは、これまでに類を見ないことだ。

しかし、私は実際はそううまく解決する方向へ進んでいるとは思えない。問題なのは、プーチン大統領の発言が、その時々で日本にとって肯定的な意見と否定的な意見のどちらともを述べて、一転三転しているという点だ。このことが問題解決への不安要素をますます煽っているように感じられるし、いつまで経っても平行線のままになりかねないという焦燥感をもたらしている。

また他の国々は、この問題については、腫れ物には触らない方がよいという感じの見解を示しているところが多いが、この問題について理解を得るにはまず、日ロ両国はもちろん、それ以外の国や地域の人々の北方領土に對する国際理解を深めることが最重要課題だと言える。

その理由として挙げられるのは、世界で一番有名な百科事典として知られるブリタニカ百科事典の「北方領土」というワードに関する記述である。そこには、「千島に

は最初にロシア人が住み着いた。しかし、一八五五年日本が南千島を奪い取り、一八七五年には全千島列島を占領した。その後ロシアに譲り渡されたが、今でも日本は南部諸島に対する歴史的な所有権をロシアに主張している。」とあり、ロシア側に圧倒的有利かつ日本に対する誤解を招きかねない記述がされているという事実だ。この記述を変えない限り、ロシア政府は、全世界がロシア側の主張に賛同していると思ひ込み、日本の言い分を全く聞き入れなくなってしまうという懸念があるのだ。

もはやこれは、二国間関係の中だけでは解決しきれない問題であり、他国の道徳的で正しい判断にしか委ねられないと言っても過言ではない。そのためにも、他国の人々にもっと北方領土問題に対する興味関心を持ってもらわなければならないのだ。

ロシアの一方的な不法占領から七二年の歳月が過ぎ、元島民の方々の平均年齢も八〇歳を超えた今、それでもなお悲痛な叫びを胸中に抱えている方々は多数いらっしゃる。自分が生まれ育った故郷に、日本国の領土としてもう一度足を踏み入れることがかなうよう、私たちは声を挙げ続けなければならぬ。そしてプーチン大統領をはじめ全世界の人々に、誠実で正しい判断を促すとともに、「北方領土は日本固有の領土だ」ということを理解し賛同してもらえるように努めていかなければならぬ。

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

誇りに思える地になるために

京都市立嵯峨中学校
三年 川島 花菜

北方領土問題とは、ロシアによる法的根拠のない領土の占領のことです。なぜこのような問題がおきたのでしょうか。

きっかけは、一六四四年、江戸幕府が松前藩に「国絵図」の提出を命じたことです。この時に松前藩が幕府に提出した自藩領地の地図には、「くなしり」、「えとほろ」など二十九の島々が書かれていました。よって日本はロシアよりも早く北方領土を発見していたのです。一方ロシアは、一七一一年に初めて千島列島を発見しました。ロシアが発見する約一〇〇年も前からその存在を知り、多くの日本人が生活し、父祖伝来の地として受け継いでいました。そして、今から一六〇年以上前の一八五五年二月七日、日本とロシアは日魯通好条約を結びました。この条約では、両国の国境は択捉島とウルップ島の間に決められ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は日本の領土とされました。そしてウルップ島から北の千島列島はロシアの領土とされました。この時の樺太は両国民の混住の地と決められました。次にかわされた条約は一八七七年、樺太千島交換条約です。この条約では、日本が千島列島をロシアから譲り受ける代わりに、樺太全島を放棄するという内容でした。次は、一九〇五年、ポーツマス条約です。この条約は日露戦争がきっかけで、日露戦争では、日本軍が有利な状況で戦っていたため、北緯五十度以南の南樺太が日本の領土となりました。そ

して、一九五一年、サンフランシスコ平和条約です。この条約では、日本が千島列島と南樺太の権利権限及び請求権を放棄しました。しかし、放棄した千島列島には択捉島、国後島、歯舞群島の北方領土は認められていません。なお、この条約では放棄した地域が最終的にどこに帰属するかについては、何も決められていませんでした。これらの四つの条約から見分けるように、北方四島はいまだかつて一度も外国の領土となったことがない我が国固有の領土であり、ロシアによる北方四島の占拠は、法的な根拠なく行われているのです。この問題に対して日本はどのような対策をとっているのでしょうか。

北方領土返還実現のための外交交渉を強力に後押しするためには、国民が問題を正しく理解し関心を高め、国民世論の結集を図ることが大切だという認識のもとに、二月と八月を「北方領土返還運動全国強調月間」と定め、大会やパネル展、街頭啓発、署名活動など活発な国民運動が行われています。また、一九八一年、政府の閣議了解により、二月七日を「北方領土の日」と定められました。これらのように、私の知らないところでもたくさん活動がされています。

私は、この北方領土問題を日本国民全員が理解し、北方領土が返還されるために行動をおこすべきだと強く感じました。そのために二月七日の「北方領土の日」を休日にし、国民全員に知ってもらわなければならない。また、全国のスーパーやコンビニに北方領土の問題に関するポスターを設置し、一人でも多くの人に知ってもらえるきっかけをつくればいいと思います。日本国民全員が一つになり、助け合う時です。だから、今こそ立ち上がりましょう。日本国民が明るく、誇りを持って北方領土に行けるようになることを願っています。

優秀賞(北方領土返還要求京都府民会議会長賞)

北方領土、望む本当の解決へ

京丹波町立和知中学校
二年 梅原侑理沙

ニュースを見てみると、ときどき耳にする北方領土についての問題。私はこれを聞かされた時に思っていたことがある。

「何故、七〇年もたっているのに解決しないのか」と。しかし、実際は「七〇年も」ではなく、「七〇年しか」たっていないのだ。今回、北方領土について調べてみて一番にそう思った。

約七〇年前、ソ連の兵士たちは銃を向けてそこに住む人たちの土地や財産、そして自由を奪っていった。その時受けた島民の人たちの心の傷は、私にはどういはいはかりしれない。ただ一つ、想像するにその傷は七〇年以上たった今でも消えてはいない。そして現在、そこにはロシアの人たちが住んでいる。

ところで、仮に北方領土が日本のものとロシアが認めたと、彼らはどうなるのだろうか。また同じことを繰り返すのだろうか。そのことに関して調べてみると、日本は住んでいる人の人権、利益及び希望は十分に尊重するとしている。しかし、そう言われたからといって簡単に納得できるものではないと思う。こういったところに領土問題が解決しない一因があるのだと思う。

今、住んでいる人、七〇年前島から出ざるをえなかった人。この人たちの気持ちは絶対に無視してはいけなかつた。北方領土問題において一番重要なのは、北方領土がどちらの国のものかということよりも、それに関係する人の

気持ちなのではないかと私は思う。

現在、北方四島への訪問、そこに住んでいる人たちとの交流が積極的に行なわれている。これには、相互理解を促進させる目的があるそうだ。こういった取組を通して、お互いの気持ちを理解し、歩みよりのきっかけになっていってほしい。

今回、北方領土について調べてみてこの問題に対する考え方が変わった。そして、これは日本国民全員に関係することなんだと思うようになった。

一度こわれてしまった信頼、離れてしまった距離はもう元にはもどらなれない。だからこそもう一度新しい関係を創っていかねばならない。以前よりもっと強く関係を確かなものを。そのためにもっと自分たち国民がこの問題に興味をもつ必要があると思う。「自分には関係ない」ではなく、新しい関係を創るためには一人ひとりがこの問題にむき合い、相手を知ることが大切だ。

もう七〇年もたった。しかしまだたった七〇年。七〇年前に起きたこと、受けた傷、壊れた信頼を全てなかったことにはできないが、新しく何かを築くには、離れてしまった距離を取り戻すには、まだたった七〇年しかたっていないのだ。

北方領土問題には「人の気持ち」が深く関わっている。きっと領土がどちらの国のものかはつきりしたとしても、この問題が本当に解決したことにはならない。これから先、何十年かかったとしても、両国の国民が納得できる答えが見つかることを深く望んでいる。そして、そのためにも、私は、今一番大切なことは何なのか考えた

優秀賞(京都新聞賞)

思いやりの心を目指して

南丹市立園部中学校
一年 西山 満琉

「日本の多くの方が被災されたことにショックと悲しみを抱いています。どうか私たちに皆様の苦しみを分かち合わせてください。」

これは、二〇一一年三月一日に東日本大震災が発生し、カンボジアのある村の人々約三十人から寄せられた義援金に添えられていた文章です。この事実を知ったとき、私は北方領土問題のことを思い出さずにはいられませんでした。

北方領土では一九四五年の終戦から七〇年以上、元島民の人々は故郷に帰ることができていません。それでも北方領土は「我が固有の領土」という事実には変わりはないのです。自分の大切な故郷が目の前にあるのに帰りたい、帰れない。もし自分が元島民だったらと考えると、とても辛い気持ちになります。しかし今、島に住んでいるロシアの人々を追い出してしまうたら、また同じ悲しみの繰り返しとなってしまう。私は最初、両国が辛い思いをせずこの問題を解決するには、もっと話し合い、交流を深める必要があると思いましたが、それだけでは何か足りません。日本とロシアの間にある七〇年の大きな壁を越えるにはもっともっと大きな力が必要なのです。そんな時、カンボジアの人たちのことを知ったのです。

カンボジアのその村は、内戦で多くの地雷が埋まり、その被害で経済的にも苦しい状況が続いています。

た。日本のNPO法人は「地雷原を綿畑に！」と村を支援し、徐々に収入が得られるようになっていったそうです。それでも村人の平均年収は一家族約七万円足らずです。しかし村の人々は、少ないお金を出し合い、約八万円もの義援金を日本に送ってくださったのです。今の日本にとつての八万円と、村の人々にとつての八万円は重みが全く違います。相手を思い、相手の苦しみを分かち合うという、これほどの思いやりが世の中にあると知り、私はとても感動しました。そしてこの思いやりこそが、日本とロシアの間にある問題を解決する方法だと思ったのです。

現在、日本は北方領土に対して患者の受け入れ、医師や看護師の研修などの医療支援を行っています。二〇〇三年から二〇一五年の間で受け入れた患者の人数は約二〇〇人です。最初は、どうしてそんなことをするのかと思いましたが、北方領土問題という大きなものを打ち砕くのは、この方法しかない。今でははつきり思います。日本の思いやりの気持ちを伝え続け、信頼できる関係を築くこと。日本とロシア双方の島民の共存を目指すことで、両国が納得できる解決策が見つかるのではないかと思いました。

北方領土問題は簡単に解決できる問題ではありません。だからこそ、私たち一人一人が北方領土問題について関心を持ち、問題の解決を訴えていく必要があるのではないのでしょうか。そのためにも、私は日頃から思いやりと感謝の気持ちを持つことができるようになりたい。そして、この国の国民の一人として北方領土問題について関心を持ち、どんなに大きな壁であっても「思いやり」の心を持って乗り越えるために行動できる人でありたいと思います。

踏み出す一歩

京都市立栗陵中学校
三年 深尾 まりん

「何も自分には出来ない。」
と私は思っていた。よくテレビのニュースで北方領土について専門家の人達が話し合っているのを何も考えずに見ていた。はつきり言っている国の事なのにどうしてこんなにも他人事なのだろうと思ったりもした。だが、この問題は絶対に放っておいてはいけない重大な問題である。戦後七十五年経ったのに領土問題が出るのはおかしい話である。そしてこの問題によって、未だに平和条約が締結されていない。
そして北方領土問題でも大きく関わっている事、それは資源である。北方領土周辺には豊富な石油、天然ガスが眠っている。また、北方領土近海のオホーツク海も豊富な漁場である。例えば鮭やホタテなど私達の生活にも関わる事のある食材だ。もちろん、このような食材が獲れないとなると、私達の生活にも影響が出るだろう。だが北方領土返還が成立すると影響を受ける人もいる。実際は、北方領土にはロシア人が多く住み、生活を送っているのだ。それに対し、北方領土に日本人は一人も住んでいない。日本であるのに日本ではない様な気がする。学程、島は違う国の文化であふれているのだ。例えば、学校、家、病院などもしっかりと設備されている。例え、貧しさはあまり見られない。そんな中、特に気になっていたのが、やはり外国の文化が入っているのか建物もカラフルであ

る。道路もすっかりとしていて、確かに生活を送るには充分な環境だといえるだろう。北方領土に住むロシアの人達は北方領土問題についてどう思っているのだろうか。返還に賛成なのか反対なのか。そして、元々北方領土に住んでいて、追い出された日本人の故郷はどうなるのか。
私は二つの立場に立ってこの問題について考えたが、はつきり言って、どちらかがどうすれば良いとかそんな簡単な問題ではない事に気付いた。なぜならどちらとも同じ方向を見て進まなければ絶対に解決しないからだ。それに、一人の意見で決める事は決して許されない。今、日本が本当に目をそらしてはいけない問題の一つである。
私は北方領土問題について学んだのだが、私達に出来る事はまずはこの問題をしっかりと理解し、向き合う事である。今の私には無理があるかもしれないが、大人になつてから一度北方領土へ訪れて自分の目で現状を見る事が大切だと私は思う。その場へ行つて今住んでいるロシア人の生活を知り、話を聞いて自分で新たな事を見つけれないと、少しでもこの問題を動かす事ができるかもしれない。
私達に出来る事は小さいことなのだが、みんなが意識を高めれば高める程、問題解決へと近づく。だからこそ、北方領土問題は誰一人と関係のない話ではなく、自分の国や生活を守るためには、私達が動いていくしかない。

北方領土返還に向けて

綾部市立八田中学校
二年 山内 颯太

ぼくは今まで、北方領土問題について深く考えることがなく、授業で少し聞いただけで自分には関係ないと思っ
ていました。しかし、このように北方領土についてし
っかりと向き合う機会があることによって、この問題の
複雑さや日ロ両国の主張、返還後のことなどについて考
えることが出来ました。

調べていくと、この島々には複雑な歴史があることが
わかりました。その中でも、ぼくが特に重要だと思っ
たことが二つあります。

一つは、一八五五年に締結された日ロ和親条約（下田
条約）です。この条約では日本とロシアの境界線は「択
捉島と得撫島の間」と定められています。つまりこの時
点でロシアは、「北方領土は日本のもの」と認めている
ことになり、ロシアによる占領は不当だということ確
固たる証拠になっていると思います。

もう一つは、太平洋戦争における対日ソ連参戦です。
はつきり言って、日本が降伏した八月一日以降のソ連
による侵攻は卑怯だと思えます。占領したとしても一九
五六年の国交回復時に返還すべきだったと思えます。北
方領土は、以前日本が占領した朝鮮半島や台湾とは違い、
「日本固有の領土」であるため、ソ連による占領、それ
を継承したロシア連邦による占領は不当であり、許され
るものではないと思います。

また、返還に対して両国に温度差があることも問題だ

と思います。日本側は「返還」つまり返してもらおうとい
う立場です。一方ロシアは「譲渡」すなわち譲ってやる
という立場をとっています。この考え方が両国の話し合
いを進めていく上での大きな足かせになっているのでは
ないかと思えます。そのためにも、両国が足並みをそろ
えた上で「北方領土は日本の領土」だということを、広
く国際社会に訴えかけていくことが重要だと思います。
またこの問題を考える上で欠かせないことは、返還後
の島々をどうするかということです。ぼくは次のように
すれば、平和的に解決できると思います。

まず日本の領土であることを明確にし、基本的には日
本の法律を適用するが、当面複雑な事情を考慮した上で
特区とし、日ロ両国民が無条件に永住できるものとする。
教育、通貨、言語表示などは両国のものを併用、関税も
撤廃。

次に車の左側通行の導入、通貨の一本化など、日本と
しての実効支配を強化。

最後に根室へのフェリー航路の開通、羽田・新千歳な
どへの空の便の充実化などを行い、日本との経済的な結
びつきを強くする。一方でお互いの文化への理解、尊重
を深めるための行事などを企画し行政が主催する。

このように、お互いを尊重し、平和で共生できる北方
領土は作れます。そのためにも両国が友好を深め、信頼
しあえる関係を作っていくことが非常に重要です。その
上で日本側の主張も広く理解してもらわなければならない
です。

優秀賞（KBS京都賞）

「おかしい」だからこそ

京都市立桂川中学校
二年 竹中 裕貴

「おかしいんじゃないか。」
これは僕が北方領土問題を知って、率直に思ったことだ。これはロシアだけでは無いと思う。理由は、北方領土に住んでおられた方の話を調べていた中に、「日本に見捨てられた」という意見があった。ふつうなら日本の領地だし、本気で取り返すために努力するはずなのに、日本は外交交渉を積み重ねても曖昧な答えばかりである。また、北方領土におられた方々は、日本の領海内で漁をしているだけで非道な扱いを受けていたのに、日本政府は的確な対応をとらなかつたと聞いたからだ。日本が日本政府が動かないのが悪いだけではなく、日本国民全員がこの問題に真剣に向き合うことも必要だと思った。僕もこの話を聞くまでは真剣に考えたことはなかつた。「何か外国のことみたいなき感じ」とまで思っていた。しかし、この話を聞いて昔から住んでいた日本人がいるというのを知って、「おかしい」と思うようになった。なぜなら、北方領土は昔住んでいた人にとつては、大切な出の地であり故郷である。もし、自分の生まれ育った大切な地がなくなると、ただただ悲しいと思う。北方領土で生まれ育った方々は、今その気持ちなんだから、僕たちは、中学生だからと言いつつ、積極的に行動に移すのが大切だと感じた。だからといって、現地の行動に移すのが大切だとは思わなかった。例えば、まず知識を身に

につけることである。理由は、昔住んでいた人々の高齢化が進み、近い将来には話を聞けなくなり、返還への思いが弱まってしまいかも知れない。だから、まずは自分が知ってから後世に語り継ぐことで返還が実現する可能性が高くなると思うからだ。
交渉をしていく中で、齒舞群島と色丹島の返還を実現すべきという案がある。でも、それはおかしいと思う。理由は、元はすべて日本固有の領土であり、島が一つでも欠けたら日本ではないからだ。
前にも述べたが、この問題はおかしいと思う。だからこそ国に任せ切らず、日本国民全員で向き合わなければならぬと思う。今は一部の国民の願いだが、これが日本中の人々の願いになると世界中の人々も「これはおかしい」と思い、必然的に北方領土返還が実現すると思う。そのためにも、自分から始めようと思う人が必要になる。僕もその一人になれるように努力したい。